

IODP341 次航海アラスカ湾 U1418 コア堆積物中の珪藻化石分析 Diatom analysis of IODP Exp.341 Site U1418 in the Gulf of Alaska

今野 進^{1*}; 菅 聖一郎¹; 岡崎 裕典¹; 朝日 博史²; 福村 朱美³; 松崎 賢史⁴; 須藤 斎⁵
KONNO, Susumu^{1*}; SUGA, Sei-ichiro¹; OKAZAKI, Yusuke¹; ASAH, Hirofumi²; FUKUMURA, Akemi³;
MATSUZAKI, Kenji M.⁴; SUTO, Itsuki⁵

¹九州大学大学院 理学研究院, ²韓国極地研究所, ³北海道大学, ⁴産業技術総合研究所地質調査総合センター, ⁵名古屋大学大学院環境学研究科

¹Graduate School of Sciences, Kyushu University, ²Korea Polar Research Institute, ³Hokkaido university, ⁴Geological Survey of Japan, AIST, ⁵Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University

アラスカ南方陸棚から外洋域において、2013年5月末から7月末にかけてIODP第341次航海が実施された (Expedition 341 Scientists, 2014; 須藤ほか, 2014)。掘削海域であるアラスカ湾周辺域はプレートの沈み込み帯にあり、活発な造山運動や北米氷床の存在で良く知られている地域である。海底地形は造山活動や氷河作用によって大きな影響を受けており (Carlson et al., 1982; Elmore et al., 2013)、多量の陸上堆積物や、陸水や融氷水を起源とする淡水などにより栄養塩が供給されている。そのため、珪質・炭酸塩殻を持つ植物・動物プランクトンが多く生息し、アラスカ湾の豊かな生態系を支えている。これまでアラスカ湾沿岸域におけるピストンコアで得られた海底堆積物試料を用いた研究は、研究対象域における堆積速度が極めて速かったため、最終氷期以降のものに留まっていた (Jaeger et al., 2008; Davies et al., 2011)。

本研究で使用するU1418コアは船上の微化石及び古地磁気データから約1Maまで堆積している事が明らかになっており、珪藻化石分析を始めている。本発表では、U1418コアの船上データと下船後に分析したデータを報告する。

キーワード: IODP341 次航海, U1418, 珪藻

Keywords: IODP Exp.341, U1418, Diatom